



和土小だより



児童数	男子	111名
	女子	99名
	総計	210名

発行責任者 校長 辻 美由紀



みんなちがって、みんないい 校長 辻 美由紀

春季大運動会には、保護者の皆様、地域の皆様にご来校いただき、ありがとうございました。子どもたちは、皆様の大きな声援にも後押しされ、暑さの中でしたが、最高のパフォーマンスを見せてくれました。力強い身体の動き、笑顔あふれる愛らしい演技、心からの友達への声援、緊張しながらの係の役割、優勝チームのガッツポーズに準優勝チームの悔し涙、どれも「気力、全力、協力」を大切にして取り組んだ成果、キラリと輝く和土っ子達の姿だったと思います。

さて、今月は、私の好きな金子みすゞさんの詩「わたしと小鳥とすずと」を紹介します。金子みすゞさんは、童謡詩人であり、多くの方がご存知かもしれません。教科書にも掲載されているこの詩は、私が、大学生の頃、初めて出会い、以来とても気に入っているものです。

私もそうでしたが、皆さんの中にも、他人のことを「いいなあ」「〇〇さんばかり、ずるい」「私も同じように…」と思う人がいるのではないのでしょうか。確かに、自分にはできないことを易々とやってのけるスマートな姿、自分と違って運動でカッコよく活躍する姿、聞いたこともないような国のことを教えてくれる豊かな知識や経験など、憧れの気持ちをもって羨ましく思うことがありました。でも、それは、その人が、これまで積み重ねてきた人生（毎日の生活）の中で培ってきたものなのです。そこで、私は、見方を変えて「自分が積み重ねてきた毎日の中で培われたものは、他の人はもっていない自分らしさであり自分のいいところなのだ。」と考えることにしています。

このことを、こんなにやさしい言葉で紡ぐ素敵な詩。きれいな音の鳴るすず、空を飛べる小鳥、そしてわたし、「みんなちがって、みんないい」ですよね。和土っ子の皆さんは、友達のよいところを見つけることは、学習の場面でも上手にできています。では、自分自身の素敵などころについては、どうでしょう。「自分にはない」などと、言っている人はいませんか。そんなことはありません。「あなた」にも「わたし」にもたくさんある「キラリと輝く素敵などころ」をたくさん見つけて、友達から学び、自分自身を磨いていきましょう。大人になった私達も、そんな気持ちを持ち続けたいものです。

わたしと小鳥とすずと

金子 みすゞ

わたしが両手をひろげても、
お空はちっともとべないが、
とべる小鳥はわたしのように、
地面(じべた)をはやくは走れない。

わたしがからだをゆすっても、
きれいな音はでないけど、
あの鳴るすずはわたしのように、
たくさんうたは知らないよ。

すずと、小鳥と、それからわたし、
みんなちがって、みんないい。

ひとみ輝く 和土っ子の育成

○やさしい子 ○かしこい子 ○たくましい子
やさしさいっぱい 力いっぱい 元気いっぱい

